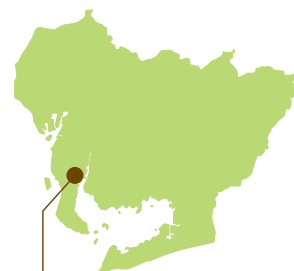


有限会社石川養豚場

※2017年3月現在

代表者名	石川 安俊	資本金	10 百万円
設立年	1982 年 7 月 1 日	売上高	1,218 百万円 (2016 年 2 月期)
事業内容	生産 (豚)、消費者直売、 加工・製造	経営規模	生産施設 25,100㎡、 加工施設 750㎡ (精肉加工)、 直売所 500㎡ (販売アイテム 数:180種類)、畜舎 12,190㎡、 母豚 700 頭
従事者数	57 人 (うち女性 35 人。女性内訳: 役員 2 人、一般職 14 人、常勤パート 19 人)		
女性活躍 支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 時間外労働及び深夜業の制限 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (休憩室・屋内・野外トイレ・シャワーの設置)、重労働 等の業務改善		



愛知県半田市

経営概況

(有)石川養豚場は、12,190㎡の畜舎で母豚700頭を飼育する繁殖肥育一貫経営の法人である。

豚の生産を基礎に、自社工場(750㎡)での精肉加工、ハムやソーセージ、惣菜の調理・加工までを行う。代表である石川安俊氏の父は、黒毛和牛を飼育していたが業績が芳しくなく、農業系

高校を卒業した安俊氏は埼玉等での農場研修を経た後、1969年に稲作と組み合わせて豚の飼育を始めるようになった。

着実に頭数を増やし、妻のあい子氏と結婚した頃には100頭まで増えた。やがてあい子氏も豚の分娩現場に出るようになると、飼育頭数が300頭を超えるようになった。

1997年に商標を取得しブランド化しながら販路拡大を図り、地元スーパーへの取引をきっかけに、さらに経営規模が拡大した。「1頭売り」の方針を貫き、精肉として販売された豚肉は割高ではあったが、その味の良さが評判となり根強いファンがついたことから、2000年に豚肉やその加工品を販売する直営店(500㎡)を開店した。

直売事業は安俊氏の長年の夢であったものの、加工や販売のノウハウはなく、当初は赤字続きで苦労したという。

未経験の状態で店長に指名されたあい子氏も、全て手探り状態で失敗を重ねたが、コンサルタン



トのアドバイスや取引先等の支援・協力を得ながら試行錯誤し、少しずつ売上・販路を拡大できるようになった。

現在では正社員33名（男性19名、女性14名）、常勤パート20名（男性1名、女性19名）を雇用している。

1. 現場で生かされる女性の気づきの力

サラリーマン家庭に育ち、農業の働き手としては未経験のあい子氏であったが、安俊氏の影響もあって養豚経営に関わりはじめ、経営拡大に伴い分娩舎の管理を任されるようになった。

その過程で、細やかな観察力・気づきの力、現場での工夫の様子、あるいは互いの競争心も含めた女性の特質が子豚の生育の向上に繋がることに気づき、女性の優れた点を実感した。

実際に生産部門ではパートではなく正社員として女性を雇用しており、男性との得意不得意を補完し合う管理を実現したことで豚の成長が早まるなど、生産性の向上に繋がっている。

そうした女性の気づきの力は、直売店や加工部門でも生かされている。惣菜の商品開発や調理工程では、女性社員の消費者目線での商品展開がされており、農場で生産された肉が無駄なく商品化されている。

ハムやソーセージ以外の商品として、たとえば肩ロースの切り落とし部分をひき肉として販売するのではなく、「カレー用」として販売するなど、主婦目線が生かされている。

また、魅力的なPOPの作成に長けた女性社員がいることも相まって、今では様々な特技をもつ女性社員が直売所の運営を支え、売上の増加に貢献している。

2. 女性のキャリア形成

当初は、時給の良さにもかかわらず男性社会のイメージが強く、パート社員の確保に苦労したが、週休二日制の導入や勤務体制づくりを従業員と話し合いながら柔軟に対応することで、現在では多くの女性パートを雇用できるようになった。

また、女性社員を積極的に学びの場（外部研修・セミナー等）に参加させることで、生産・販路計画等の責任ある仕事を女性社員に任せられるようになり、パートから準社員へとキャリアアップした女性もいる。

3. 女性が働きやすい環境の整備

農業系高校や大学を卒業した、専門知識を有する女性社員の入社が実現していることもあり、有能な社員が長く働いてもらえるように産休・育休を取得しやすい社内体制を整備している。

また2017年3月に完成予定の新豚舎には、更衣室や男女別のシャワー設備を完備する等、農場で働く女性スタッフにも配慮した環境づくりを常に行なっている。

審査委員の声

農場と食肉販売部門それぞれに女性が活躍している。養豚の個体管理、観察は女性の方が適しており成果として現れている。

店舗の商品開発は、女性のアイデアによるものが大きく、現在の順調な運営となっている。

養豚は難しいため、最初から女性を正社員として採用し、教育する。店舗では女性従業員の家庭事情を考慮しパート採用から準社員登用を行い、将来的には正社員登用を行う予定もある。

プライドを持って仕事をする女性に頼もしさを感じた。